

輸入F1飼料用トウモロコシの優良品種「31N27」

福島県畜産試験場 草地飼料部
平成17年度畜産試験場成績概要
分類コード 08-02-01000000

部門名 飼料作物－飼料作物－品種
担当名 中村フチ子・大槻健治・柳田和弘・佐藤茂次

I 新技術の解説

1 要旨

- 飼料用トウモロコシの優良品種として新たに「31N27」が選定された。
優良品種の選定は、「福島県優良品種(輸入F1サイレージ用トウモロコシ)総合評価基準」(平成15年改訂)に基づき行った。
- (1) 生育特性
発芽から黄熟期までの日数は標準品種のタチタカネより遅い晩生タイプである。また、稈長は標準品種より若干ひくく、比例して着雌穂高比率も低い。(表1)
 - (2) 耐病性
耐病性はすす紋病・黒穂病・根腐れ病は標準品種よりやや劣る傾向がみられたが、ゴマ葉枯れ病・根腐病に対する耐病性に優れる。(表2)
 - (3) 収量性
乾物収量および乾雌穂重割合は標準品種より3ヶ年平均でそれぞれ337.7kg/10a(対標準品種比率20.3ポイント)、0.9ポイント上回っていた。(図1)
 - (4) 耐倒伏性
耐倒伏性は標準品種並みに優れている。
 - (5) 他県の成績
秋田・宮城・山形・福島各県における乾物収量は秋田県を除き対標準品種(32K61)比率で100を超える収量を上げている。(表4)

2 期待される効果

飼料作物の収量向上及び耐病性向上による安定生産が期待できる。

3 適用範囲

平坦部のトウモロコシ一期的作地帯

4 普及上の留意点

- (1) 播種量：6000本/10a程度
- (2) 適期播種を心がけ、病害発生や倒伏がおこらないよう栽植密度を守る。
- (3) 紋枯病並びに黒穂病の耐病性は標準品種並み～やや弱いため、多発地域での栽培は避ける。

II 具体的データ等

表1 生育特性(3年間平均)

	RM (カタログ)	生育日数(日)			稈長 (cm)	着雌穂高 比率(%)	倒伏・折損率(%)		
		播種～出芽	出芽～絹糸	発芽～黄熟			倒伏率	折損率	合計
標準品種									
タチタカネ	125	10	76	131	310.8	50.0	0.0	44.8	44.8
検定品種									
31N27	125	10	74	133	292.4	46.8	1.2	11.7	12.9

表2 病害発生程度(3年間平均)

	すす紋病 (1～9)※	ゴマ葉枯れ病 (1～9)※	黒穂病 (%)	根腐病 (%)	すす萎縮病 (%)	紋枯病 (%)
標準品種						
タチタカネ	2.0	1.9	0.3	11.1	0.0	28.8
検定品種						
31N27	2.1	1.5	2.9	5.4	0.0	35.1

※:病害が見られないものを1、甚だしいものを9として表示

表3 乾物収量(3年間平均)

	乾物収量(kg/10a)			乾物率(%)			乾雌雄穂 重割合(%)	乾物収量※ 対標準品種比率	
	茎葉	雌穂	全体	茎葉	雌穂	全体			
標準品種	タチアネ	844.6	322.3	1666.9	22.9	62.0	33.8	49.4	100.0
検定品種	31N27	981.0	1023.6	2004.6	22.2	61.5	32.0	50.3	120.3

※:各晩生の標準品種平均値との比率

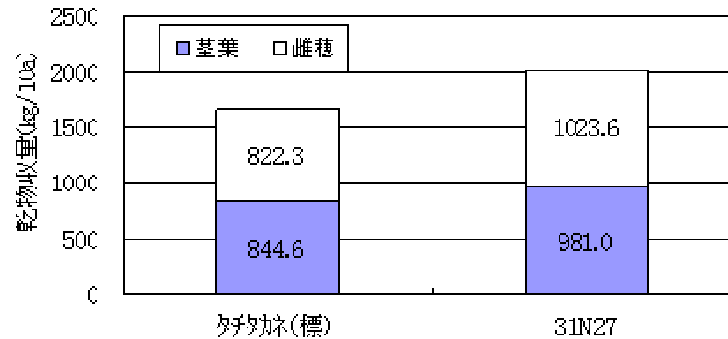


図1 乾物収量(3年間平均)

表4 東北地域優良品種選定ネットワークにおける3ヶ年の平均成績

	乾物収量 (kg/10a)	対標準品種 比率(%)※1	耐病性		倒伏率(%)
			根腐病(%)	コマ萎枯れ 病(1~9)※2	
秋田県	2228.9	98.9	0.0	1.0	0.2
宮城県	2091.0	109.3	0.6	2.0	0.1
山形県	2017.5	105.0	4.8	1.0	0.0
福島県	2004.3	101.2	2.7	1.5	1.6

※1: ネットワーク標準品種である「32K61(RM122)」との比較

※2: 病害がみられないものを1、甚だしいものを9として表示

Ⅲ その他

1 執筆者

中村フチ子

2 主な参考文献・資料

なし